

經書部

○圓淨寺

東

一向宗

寺町

○金洗山圓淨寺 本山は京都本願寺中山奥州南部

本林岡石本林山本誓寺の當寺開祖ハ良通天文十九年

化俗姓不知傳曰天文年中證如上人ハ阿弥陀佛

真影を賜り安んずる寺号を願成寺と賜り其後北

越の兩國に經甲く數宇を建立後より故ありて本國を

出て當國より其の所結陀佛の画像と寺号佛と稱

て今も安んずるも依○二世願成寺長十一年慶長十一年

横手郷於明永村一字建立○三西ノ西長十五○四

世專寛文十年西○五世祐玄延化年○六世專玄延宝八年

○本山十五世常如上人ハ木佛尊像市免其尊恩召

を以て圓淨寺と寺号を改め給ふ市免狀所持す

○七世了哲元禄十四年五月二十九日化○八世了誓享保十六年陰辰三月廿日化此代内
ふありて新所大島井山麓に移り住す○九世了
秀元文元年十月二日化○十世了空安永三年五月朔日化寶曆八年寅六
月二十四日新所の大島井山寺に移り住す現
在の地是なり○十一世了海文化五年十一月二日化○了瑞十二世現
住文化六年春入院住職

○寶物

○本尊阿彌陀木像佛工不知○繪像阿彌陀一幅證如上
人市裏市○六字石号蓮如上人市筆○同名号寶如上人
市筆○教如上人真影宣如上人市筆○上宮太子真影
兼如上人市筆○三朝高祖真影同上○古筆画像阿彌陀
筆者不知○觀音繪像同上

已上

一向宗圓淨寺主

○大衆院

寺町

○三井寺山大衆院、湯殿山大目坊ノ門、市人派ノ寺
ニ横手一仰ノ祈願所、本尊ト如意輪觀音有、過玄帳
什物等残リ、又、田保ニ會テ由緒歴代ノ傳々、傳
ハ、唯残リ、正元元年ノ大錫丈ノ冠首一頭、貞享三
年、洪鐘ノ存リ、その世を知リ

○大鐘、鉦、為代々先師六親眷属也、本願主定音
房宥秀治鳳、玄智房者、照也、觀行人光房、結主親
助、全甚太郎、治工與右衛門、奉始法印、宥元上人
有、元二條勸進貴賤奉加上下云々、貞享五年十一月十

一日云々と見ゆ

○大般若經六百卷本尊佛画一軸、寺先住活道師、寄附之

○神社三社あり左よりしるす

○午頭天王社境内の土藏の内より斎する元三日より神供を献り同二十七日より斎する所念五郎よりおとし本祭礼六月十四日十五日献供如恒例も、諸款報祭の人より貳を奉るも横山のこしを詣群集おとし知る

○末社正位稲荷大明神秋葉山大権現毎年壬辰日所内鎮火祭祈禱あり

○三月十七日大般若經轉讀導師と觀音寺法印並衆僧を請待し国家安全市武運長久之祈禱あり

○十二月七日八日紫燈護摩執行神供如恒例
○湯殿山講羽黒山講 正月より十二月まで毎月八日十二日行あり

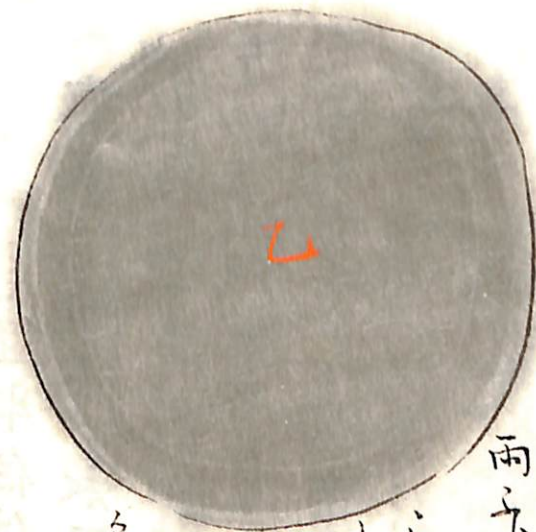
當時住僧湯殿山大坊主大乗院秀傳

○大乗院境内表口二十一間一尺五寸裏行三十間之類汎二ヶ寺ありより今も廢寺なり

同門葉

東善寺下寺あり其地廢寺あり境表口十間裏行十三間
寶性院羽黒新山土族子存廢寺あり境表口六間半裏行十九間

○大乗院、皇寶あり此在葉よりしなり



らたをさ
て雨
剛とい
るきふ
せと
と見えたり



らたをさ
金剛雪金
へば雨を祈
る辞を名と
しつ云

圓石大小あり凡圓の如しつらね色ハうす黒し甲小な
らハ貝石とて中子貝を孕たんとつら乙大なる其象
鮎イサハサ容イサハサはひとしむら一此寺を祈雨をせし其行ひの法
貝より倭訓葉子武別雨降山雨降明神の鮎容を
大々瓢子の如し早魃の時此を山上に持てて術法を行ふ
雨ふざる事多しとつら或ハ本名ハへい
らたをさ

西面大錫杖長甲一尺許乙杖口丸卓此互九分乙已此互五寸
五分六輪一輪を闕たり金輪ノ巨度辛一寸三分



表子信阿弥陀佛錫杖也
元正元紀八月十五日とあるなり
と刻り裡子

三信阿弥陀佛
三錫杖也

正平寺

曹洞宗

○白瀧觀音靈場縁起並正平禪寺古記録

○出羽国平鹿郡横手城外明永山般若寺遍照院

往古白鳳の創めりて其寺廢れりしをいふもや明永

野社の實なる般若寺の跡なりと云ふに三番に當りて教團所屬梨

順礼歌を奉りて花裏の林の鐘はこゑ常々教の徒の般若寺東の方は無

野獄四十代の帝天武天皇の御宇小野古朝臣大徳中納言

毛人公當國より下向ありて國司ありて山北の大島山に居城を

築きしを伽藍を造營して秀俊上人を開祖として明永山

般若寺遍照院其頃三論始といふ佛法最妙の靈刹なり其世の

寺領三千石といふ清原吉朝臣の家累に承りて連綿

して大なる城となりて誰ぞ其事詠いつてもたねも

と云ふ事久しはる小野寺家興廢に親りのやうなれど

そのまゝもたなりと云ふる人多し白瀧本記云御嶽の

堂社古般若寺とも云ふなり其後當御領
主佐竹侯の市世となりて正保の頃なる市嶽の社廢
たる興へ給ふ古般若寺兵火の時藥師佛の像を坊中の
佛より移して塚堀邑の大清水の本より安置して今を今
般若寺といふ云々見ゆ

○七十三代、帝堀河院の市宇當國金澤、城主清原武衡
家衡、訖城す鎮守府將軍源義家朝臣師鍛權太尉
清衡朝臣征伐三年、合戦は滅亡す大鳥山の城主清原、
祖系大鳥井太尉頼遠、金澤同時は落城となり寛治
五年奥羽二河の領主藤原清衡の三男正衡大鳥山の
城主の子孫は此時は滅亡せし源朝臣頼朝、奥羽の押
領使藤原泰衡を伐亡し給ふ久遠五年のころあり九十

五代後醍醐天皇の市世なり其のみふれやむ時あり元
亨のころより五十餘年、太平を唱へし、九十六代光嚴
院の市代なり相摸法郎遠光般若寺の坊中と所
領をあふし其時の兵火に般若寺廢亡す正應元年
壬申八月二日の事なり白紙本記に見えたり
相摸法郎遠
光平城城主
之横手佐渡守先父小野寺泰遠と戦ひ此時
平城滅亡せり長祿年中の事なり

○日本三十三番始順礼記六十五代花山上帝寛和二
年六月十九歳遁位入花山寺出家除髮奉鉢入覺法皇得度
師教河闍梨幸于紀國熊野那智寺三藏皇居修誦大
悲神咒練行之時神詠降猷如意珠水精念珠九穴、
貝念珠也植有今
海見庵迄放蒙告神夢長徳元年三月十七日那智山芽
一番娘諸河巡幸礼拝三十三所為齋生定置先達佛眼上

人其外供奉同六月朔日美濃國谷汲寺札納花山寺遷所
寛弘五年二月八日壽四十一歳山朋市と見ゆ

○三熊野社別華嚴院古記華嚴院のくたうしんをうしたれと此一
本大同小異の所多々あるを記す

○人皇五十九代宇多天皇市宇寛平三祥年出羽國平鹿郡

詔塩湯彦神社賜勅額出羽副郡司小野寺良實子四

品良房蒙敕使下向御嶽山市敕額所市敕使後稱市嶽山
古國見山下云神山道國見

峠塩湯彦權現明永長者弟市實号明保長者其元祖陸

奥塩竈大明神市末業後亂而長者自陸奥國來此地人皇十三代

市宇五年春詔分諸郡郡境長吏神
代其村首人号長者始見于本朝通記云と此鳥海の湖水市一見の処市

不例と云谷沃の柴屋止宿其家の娘市省病市官仕へ

やがて市快氣おれむかて主人其湖水舟を浮て奥を捕

風景市遊覧ある北方の水戸と云ふ処今水戸村
在河辺郡長者謂谷屋

曰此湖水下口堀切大海流落彼湖水可作平地田畠開矣せ

んとて市畝りとて谷屋の娘と長者小袖を給ふ此地今云明永
袖山村

長者の舎才明保長者市兄才市同侍て水上浦まで百里

古往程とて
三丁一里ありの事を両長者此地を湖水の邊とて作禮七

日斎志して天神地祇山神詭神を奉り云と於高作宮殿長

久祭詭王神社謹上最拝と障りあしと小屋を女来て

明永長者酒をのみ長者大歡喜満ちて酒飲給ふと

尽るものありかくて尋ね給ふといへる老女のいふ事を知

るなりと詭津変化の人なりとやあへりといへる其地名女造酒

村在川辺郡今云
米木村是西北谷間堀切り落猿手を持て玉を運ひ

一人夫の小屋跡を佐手子村今在川辺郡
さでの村明保長者の住居舊

地今明保村といふ一鳥海湖堀切り洪水流泥土斗りて

成就しつた明保長者按思曰泥土分水副川通時泥土自然
地成就し諸方相聞副川役人明保幸在土形成就し
田畠を開き人皆賞副河長者常在上浦北浦通海
邊の山根堀切西海入副河者住所添り村作産地今久保田大
此時糧百三駄運送今新屋此村是糧運来此西馬音内村是也
副川長者北角方到八倉山依神力一倉堀切流流即川通
成七倉山祀天神七代地神五代神副河神社建立今言
切石渡川通海入鶴渾子田畠を作村在開國神妙仁
深く萬民をあるく耕作の道を教へ所仁長者比内長者
其地の字あり木村副川大権現在明永長者向諸長
者曰湖水于他田畠を削り我開國地を山北郡と名け久
民家を資り萬民の道を教へ給ふた山頂を登り四つを見

給ふ故そを國見山市嶽山麓神小我壽命時過ち五神休此
山飲ま在り吾すある長く々々萬民諸長者を守り
あは萬民諸長者再拝し神酒を進め手を拍りた神
樂を奏し千秋萬歳を唱ふ開國の市神の市建枝満徳長者
地福長者耕作始り四十八の小倉を置今より村より小倉今横
手子高堂長者木村糠塚森を此あたりに長者といふといふ
子々孫々其後家社家ト部大連氏致ト部氏致ノ家後代の仙
人より明永長者の駒を献す其駒北に埋こゝにその駒塚と
て今なるあり

寛平三年癸丑五月吉日御嶽山社家ト部大連氏致謹誌
石田村の神樂男八乙女神女屋敷隠里林又久保目村
在字所云々と見ゆ

○華嚴院古記

六十九代後朱雀院、市宇市嶽山、社家卜部致行大連氏致
出家諱秀安字保昌古順、礼記文、大同小異、住般若寺秀安上洛始入
叡山登戒壇為阿闍梨真隆、梅勝、室五年、四月、敕唐鑑貞律師於東大寺建戒壇、
後朱雀院長久元年五月奏、其後化伴那智山、寺就百日
修法終西国三十三所觀世音像、佛工令作定朝、憑教圖所、周梨
開眼供養、云此山内條、また修驗家華嚴院の件、
委曲に記録たれば、此ふに精しうと、長久元年四月十七日教圖
阿闍梨白瀝一書、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、
とあり、ふ欲詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、詠歌補陀、
一覽歸仰とあり

應安元年中六月十七日明永山般若院秀源法印置謹託

と見えたり、秀、字累代連綿たり、按、十禪師より起る
十禪師、頭名を秀南といふ

○白瀝本記、云役行者市嶽、垂跡于白瀝、在岩上仙術
神通飛行、云々、神変大菩薩の事とあり、輯録をば
おのゝ省ぬ

○佛工定朝、佛師の綱位に登るの創あり、伽藍開基建永
道温編、十卷云、後一條、帝治安二年、佛工定朝、法橋上人位
佛工綱位、自朝始朝造法成寺佛像、好政登綱位と見えたり
定朝の作觀音像六郎云々三十三体あり、云々、今、
寺多しといふ

○大僧都教圖の事、元亨秋書、云、秋教圖、熱州太守藤
原孝忠第二子也、花山帝、避位入道、圖師、華嚴院、諸師門

得通貫國師熊誦唯識論一日誦自第一經于十時房側
松樹有異人作舞或同異為舞對曰喜國師誦徹唯識
論何樂如之故舞耳問者曰汝何人對曰春日大神也言已
不見長曆二年成大僧都永承二年六月十日滅歲七十五
々と見えたり おく教國河周梨の事 長物語云々其世形
見あ人の病るさうに 証ぬ風の後葉 真澄 五卷より出羽國秋田
郡の西の寺巡りし事ありて三十三所觀音の靈刹あり其詠歌
と叡山の教國あざとありて今昔物語十卷世俗傳に近江
國矢馳郡司堂供養田樂物語のくだりあり今とあり
北叡山の西塘の教國座よりいふ要生有り既經教化を
り其あり近江國野村郡矢馳に住る郡司をこり此人
よこりありあるとき此郡司わざと西塘よりぬ供奉何事

まきつゝとも同へ郡司がなくとしちり歎くよつて佛堂
を作し侍るをねんごころに供奉しよむとおめい侍りちの身
ちぬいといふは世のいとたこの外他事ある程遠く侍れど
一日頃市睡ちればおもしろくして給ひて申す教國いら
ゆるゆらむことといふやうく侍り其日未明も三津の邊りある
の船をつりし矢馳の津に鞍置馬二三足といひせまたぐし
おもしろく功德の大有り舞樂を供奉するさうにうらな舞樂は
極樂天上のまなひのこともぬ 樂人など呼ぶなり事なや
うらな といふ 郡司某が家人も 覺え侍るに樂は ん事
い とやす と る 教國供奉者も ある 極めたる 功德 を
し と く わ つ て 前 に 申 つ て こ と く 用 意 ある や し と い ふ 郡 司
より こ び て い ふ と は い ふ と 歸 り ぬ 約 諾 の 日 は な し と 教 國 い は

○大義山正平寺緣起並大義寺由來

夫藤原朝臣小敘中尊寺未天台宗也正衡章創明山大義寺奧

原事之不悉客歲使或人寫武則清衡系回果奉由緒

曰清原朝臣真人氏則山羽平康府增田人追代陸秀夫亂依

軍功康平外六年任鎮守府將軍出羽官領所而而真

衡武衡孫微弱而未堪平華家衡武則子任意作暴此

時鎮守府將軍源朝臣八幡太郎義家卿承詔征

之藤原朝臣市館權太郎清衡武則養子莫父經理權太夫長子而秀衡之祖也

亦屬義家攻于金沢城力戰三年伐賊滅焉寬治未五

年振旅上洛而於朝庭賞清衡奧羽兩國之任鎮守

府將軍奧州邑市館正衡清衡出羽邑權手今國村古城跡是

泰道長祿二年秋田泰
賴卜西入南部三郎爲幕
下也其後家臣佐藤式
部小輔忠註以智謀
實正六年四月三應
仁二年六月三丁四年尚
南部公戰終打勝再
仙北本城文明九年十
二月六日卒七十五大
教院女子田村庄司妻

同書云惟道父景道
若三離京都上將

軍家奉公其內晴
道小野寺代官之惟道
下國後仙北權手底住
天文十五年五月二十七
日生官
女子遠藤盛康室道
秀持三郎金沢城主之
同書云景道孫次郎玄
苗顯明應四年常別
小田合戰爲加勢討死
四十七歲

晴道善次郎中務大
夫景道有故縫其家
後入道号松月有永正
十一年十二月一日卒六
十六歲通号輪院院長
男錦倉石見守道周次
男大友長門守道高之
小野寺正平回上正平

敏亦移住於平城長祿年中建立正平寺開基
公逝葬正平寺法号幽山道源大禪定門小野寺
泰道公
文應元年辛酉三月二日

○小野寺中書植道公泰道嫡男上法於八幡御逃
去葬于神應寺法号德清亦公大禪定門小野寺
植道公天
文十九年庚戌九月十三日

○小野寺善次郎晴道公泰道次男天文年植道上法
中以善次郎爲城代山崎隱居跡有庵天仙寺六世
閑居世俗傳言今春光寺是也智應常鑑大禪定
門同氏永祿五年壬戌二月二十日

○小野寺中宮亮輝道公植道嫡男有政誕生于八
幡御成長後將軍義輝公奉仕公市諱賜輝一字

永祿年中入部役晴道請取所領大寶寺出羽守義
氏直書有之

法号天嚴敬道性大禪定門同氏天正元年癸酉七月
六日

○小野寺四郎丸景道公輝道四男今造于龍崎城
法号孝高道英大禪定門同氏景道公長子丁酉四
月二十日

○小野寺遠江守義道公景道嫡男北月公余願流于
不見回

法号江山見性大禪定門同氏正保二年乙酉十月廿二日

真澄梅子孫道幼名孫太郎遠江守義長五年間合戰之時
上杉景勝逆意祖罪故同三年族人云々小野寺正系諸氏

右小野寺系回有之先考安年中當類燒過去帳燒

失、小野寺家女儀法号年月不相知云々と見え

○上野介正純朝臣配流事

○下野小守津宮城主本多上野介殿男出羽守殿
芳子出羽秋田横手遠流あり寛永九年四月辛巳六條
の振鋸所出立市代領の大澤千石たまりと云ふ
月朔日大曲市止宿とて翌二日横手の根岸町の新市殿
市兩鍛有市入り市附係市家志とあり市嫡男本多
羽守殿市病氣ありて寛永七年庚午五月十日逝去法号
慧光院殿鉄顔宗智大居士正平寺に葬す本多上野介
正純公寛永十四年丁丑二月二十九日逝去
法名傑史院殿雄山英公大居士共正平寺に葬すとあり
近年本多上野殿の家其血類を以て本多弥八郎殿とて

三四石より市旗本に立たるといふ市遺物あり
ゞ々れどもみな焼亡せり

○正平寺累代

○大儀山正平寺鼻祖敬嚴宗属禪師永正二年乙
酉五月十六日迁化○二世珊月永鷲和尚大永七年丁亥四
月十八日化○三世賀久翁文覚和尚天文二十年辛亥六月
三日化○四世智山永達和尚元龜三年壬申五月五日化
○五世耕田快孫和尚元和三年丁巳七月五日化○六世
徳雄良積和尚寛永二十年癸未十一月十一日化此代
遠江守義道公流刑石洲津和野一門滅亡○七世鉄
心快牛和尚延宝七年正月二日化此代當山扶起願願
称中興角鍛蘆名主計頼邦勝公使者及再三應請

移住天寧寺十世中興也義勝公引導師會津天寧寺開東大中寺移轉其頃於江府口事不可宜依而從公俄脫衣被作付生國而尋故紀州申立京大坂江戶生國而塞作渡元來當寺先住故半月斗居赤坂村出此時三住捨去身分故号三外造安養庵三外充人九十一歲不寂其後庵主即元云水里村門右門云者牟論三外充人於牌前落髮即元坊拂出即當寺為弟子而号鉄眼庵主諸人帰依之三外充人俗姓藤希朝臣蹴口兵衛尉基親次男北面士之母武者所行盛女也三外充人新天流奧吉編真蹟今上遠野氏秘藏之

○八世骨外秀存和尚承應三年甲午八月二十日俗姓掛札嘉郎門三男之此代類燒古書室物燒亡

○九世末屋篋

傳和尚元禄十五年癸午五月十六日此代藏經半備四天王建立佐藤氏

○十世一峰大淳和尚元禄十二年己卯五月二十九日此十一世通外義融和尚享保十二年己午五月二十九日此代諸堂燒亡

○十二世德恩末翁和尚寬保二年壬戌十月二十七日此代藏經全部結制鑄洪鐘

○十三世即應岱和尚享保十八年癸丑三月十五日此十四世溫秀靈系和尚元文四年己未三月二十四日此十五世大船藏大和尚寬延二年己巳二月十四日此諸堂燒失庫裡建立

○十六世微山括州和尚明和二年乙酉五月晦日此代殿堂建立

○十七世俊山領微堂和尚寬政元年己酉十一月二十五日此代輪藏新造

立

○十八世靈岳瑞苗和尚寬政四年壬子正月二十八日此

てお湯ゆきしるは心もきなりを撫さ
一人きりて依玉穿人風貌多し今す
るかな是れしあゝあ人お説きし
りありしなりけり

遠く

十月廿二日

西

西平寺 次

付

一 物もあらずあらず天を病みしあらず
月もあらずしるは心もきなりを撫さ
一人きりて依玉穿人風貌多し今す
るかな是れしあゝあ人お説きし
りありしなりけり
昔代しるは心もきなりを撫さ
るかな是れしあゝあ人お説きし
りありしなりけり
るかな是れしあゝあ人お説きし
りありしなりけり

江中舍之遠以曉移之與油利中
 新中習子細後筆法活潑并
 中讀以筆尾多為說去安全之方也
 其又之到之而後在孫以入之鬼之
 法風疎下為習行之將二豐鳴之自
 下友多信以有江之疏次之也
 其又之到之而後在孫以入之鬼之

以物如之義を以て
 用ゐるに似るもの
 有るを以て之を以て
 用ゐるものなり

梅月廿日

大寶寺

義

正平寺

詩

正平寺秘佛十一面觀音紫銅鑄佛之其高蓮臺より佛
頂まで凡の巨六寸七分佛形背方衣襞積清衡守と三字を
周りたり

考し前九年合戦の後藤頼義朝臣武則真人の安部貞任が妹を直理
権太夫妻と三歳の男子を嗣て箕第の母とし給へると武則に給ひけ



原清衡是後清將軍武則朝臣

は二子あり武衡家衡と

いふ山本郡金沢の城より義家朝臣に武衡家衡うたふなり

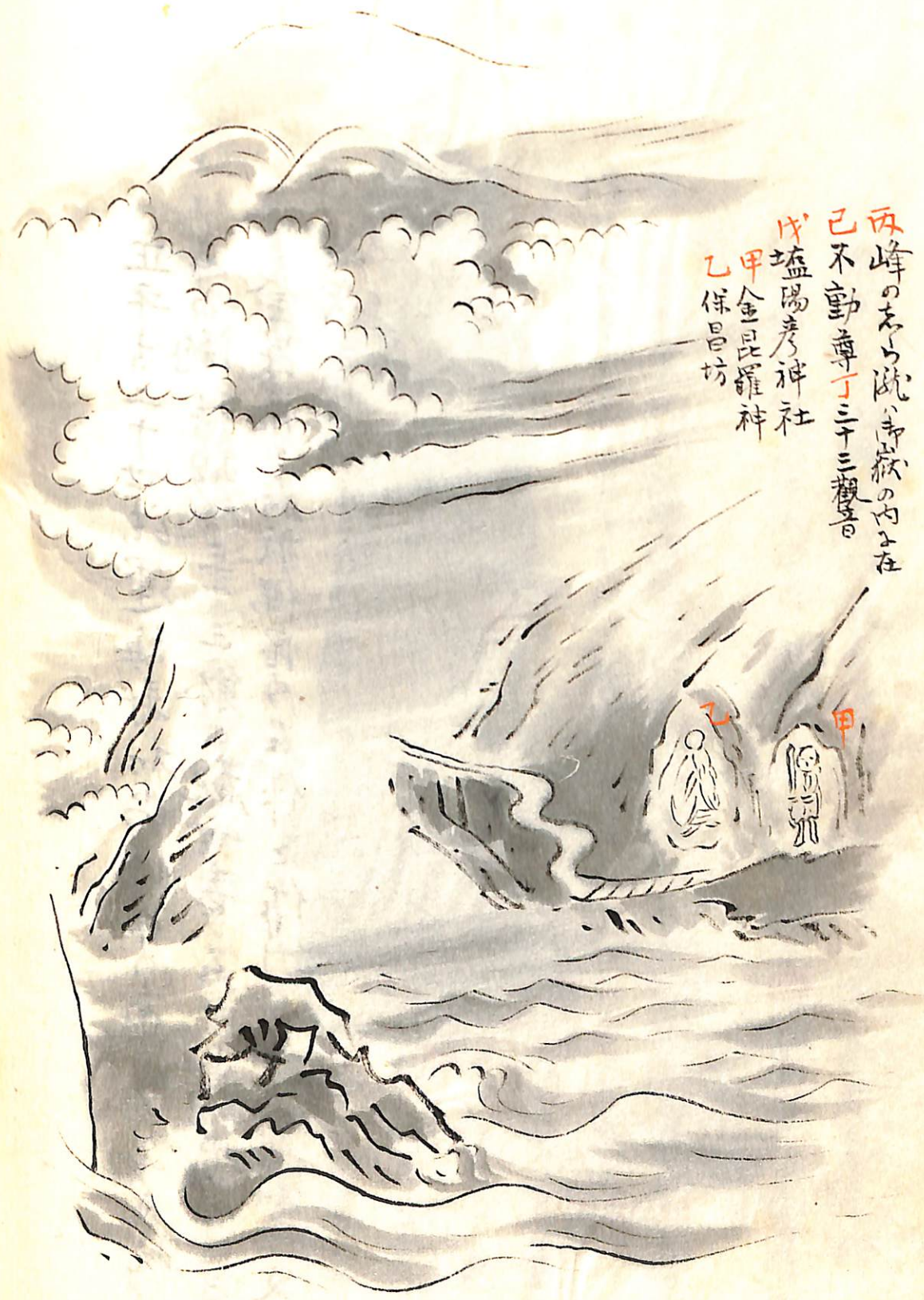
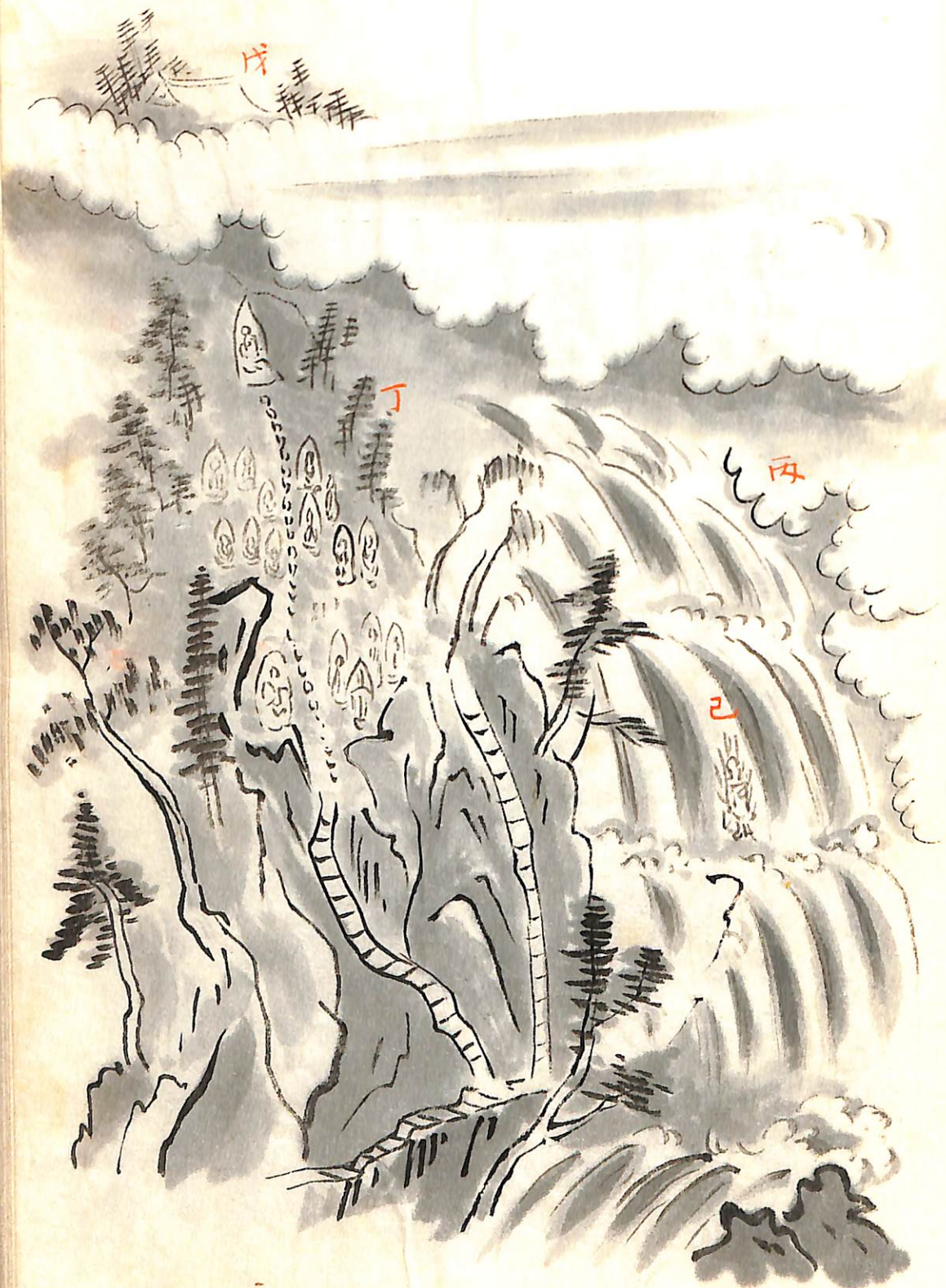
此男子成りて實

治の戦のとき義

家將軍の幕下

に召れり藤

正平より二十世法運海壽和尚保昌のあとをいづるは
ちり瀧片山より三十三の觀世音の石堂に安んじしは
金毘羅の石形保昌の石像を作して安置此和尚文
政成三月卒の遠化せり



丙 峰のふら 院の内に在
 己 不動尊丁三十三観音
 戊 塩陽彦神社
 甲 金毘羅神
 乙 保昌坊

禪林曹洞

應安五年
仙北杉宮

の男玄番頭春光之至徳三年矢嶋光

時と戦ひ玉米^{今云}郷をきりとり、其後難松^{今云}の春光房

此横手山崎と云ふ所、2所所、之應永十四年五月

二十五日壽五十八歳之卒法号春光院殿と云ふなり

これに此をふくむ都府の如くかくて中頃春光庵を

前師之了如其源因主膳殿久保四子移序

くまき 授所天仙寺とて子寺うつしの事あるを天仙寺

の檀越の諸士をたゞめおほのろとこらへしおのの苦

提寺を求むる須川うづの読士に天仙寺の義貞

初高、語話かくちりく、
子芸、抄寺を頼ん、
石瀬、

前の市進義の了字建立せんといふ義貞和尚より
新寺一字の建立事あつしかば幸ふ前御村春
光庵より春光と小野寺氏よりもと糸回より事
知ぬ此春光庵を法地佛刹とありて一寺とあり事
ありしといふ人々是におちて昌寿院殿を開創といひ
まゝ此春光寺とあり昌寿院殿の市事をたつて奉る
といふ會津城主蘆名修理大夫盛氏朝臣次女より須
川の城主二階堂氏の嫡女より嫁ふより天正甲申
落城のとき姫君後室とあり佐竹より入給ふ
どもまたより長七より市国よりあり市後室と道中を
お給ふ須川の長祿寺より葬奉りし所より角鋸
の小杉山におほしきけり市後室より山瀬の方より市柳居より

ハ小杉山あり市進義の後葺名家の門紋付し市手鏡を
市進物市記念として山瀬市前におほふ本々其鏡
ありて四寸四寸重なり鶴龜を贈り給ひしといふ山瀬方市進
あり春光寺より葬奉りしより市法名昌寿院殿光國祥瑞
大姊津光院天美公義宣朝臣市老大澤邑より市知行より別業あり布晒
ありふありといふおほくありありあり市後室の櫻
ありし事ありこと大澤邑のうだり委曲よりありて此端訖
山春光寺のふよりあり

○春光寺ハ天仙寺の門末開基昌寿院殿光國祥瑞
大姊

○祖ハ物盤鑑逸和尚○二世一雄鑑察和尚○三世中興松
岩義貞和尚○四世天曉義運和尚○五世満月宜風和尚

○六世大考宜鑑和尚○七世蜜山即門和尚○八世龍徑泰門和尚○九世寶山吾朴和尚○十世宗國藏峰和尚○十一世秋山愚幢和尚○十二世後海文龍和尚○十三世法道觀堂和尚○十四世玄錫萬崖和尚○十五世光崇和尚○十六世德壽雲峰和尚○十七世現任祖教大傳和尚○
○小杉山市村系、記念岩瀬市前の市遺物の明鏡文化二年十四世萬崖和尚ノ代ニ失ヒ今ナシトシテ

○光專寺

横手 一向西派

○西本願寺直末開根山光專寺は古開根邑に在りて延徳四年壬子に横手に移りたる寺なり此寺の創と鼻祖親鸞聖人の直弟兼信房之兼信俗姓は清和源氏の支流八幡太郎義家朝臣の末胤式部太夫源義道平氏の亂を避て常陸國にありて霞ヶ浦に閑居する頃親鸞聖人同國稲田におりて世俗を教化し給ふをうかひの佛刹をもうけし式部太夫義道隨喜の所より聖人の市弟子となり聖人の教道に法号を兼信と賜りぬ兼信としを經て出羽國秋田より平鹿郡開根村に移りて光專寺とて天泰字の僧房の破壊かりたる有りしを兼信再興しと淨土

土真宗門の佛刹よりて関根山光専寺より此寺天
老の開祖よりいづれかの星霜よりたゞいりし延徳のち
り横手子遷りて東本願寺末派なりしが當院十七
世降惠住職の時天明八年申十月四日より少くありて
西本願寺の末流と改り

○開祖兼信房生國遷化

○二世兼徳天文八年己亥三月化

○三世弘明

天文十八年正月遷化

○四世等同天正元年三月化

○五世徳兼文禄元年九月化

○六世兼

真寛文十二年二月遷化

○七世兼圓享安二年五月遷化

○八世兼將享保三年五月化

○九

世兼栄延宝七年六月遷化

○十世兼専元禄八年七月化

○十一世明空寛保三年七月化

十一世より十七世間世代不知

○十八世降惠文化九年九月化

天明

八年より西本願寺の末より

○十九世大兼享和三年八月化

○現住

二十世宗兼文化十一年正月住職

関根山光専寺二十世當住宗兼代々

○塔中

大澤山正圓寺
圓覺寺

西光院

淨土宗

阿彌陀佛

西光院

横手馬口旁所

浄土宗

横豎山九品寺西光院本寺下野國芳賀郡大澤山園通寺より善導流くるもの西光院ハ文安元年の創めといふも伽藍回祿して古記録をりま何れをたふさしなり
本尊三尊、弥陀佛作不知古佛く

○鼻祖順達社日和尚何れの國の人といふ事を志し
明應四年乙卯九月十六日示寂せり○二世本達社
深養上人大永年中遷化○三世廓辨上人遷化詳不知○四世了心上人詳不知○五世西往上人詳不知○六世轉阿上人九月二日化○七世卜河上人十月晦日化○八世衍達社祝養上人三月五日化○九世貞達社松養上人八月九日化○十世正達社覺養上人

十二月二日化○十一世十蓮社念養上人累居六十七年七月十五日化○十二世德蓮社讚養上人累居十四年六月九日化○十三世甘蓮社法養上人寬永元年十二月七日化○十四世大蓮社廣養上人寬永元年十二月七日化○十五世法蓮社良本上人萬曆元年二月十九日化○十六世寬蓮社本養上人寬文八年四月十五日化○十七世閑蓮社良空上人元禄十四年五月十五日化○十八世大蓮社良善上人享保十四年五月十五日化○十九世法蓮社萬養上人享保十四年五月十五日化○二十世念蓮社良現上人享保三年正月十三日化○二十一世光蓮社良闡上人寬文元年九月十日化○二十二世喚蓮社良遺上人寬文元年九月十日化○二十三世當蓮社良心上人六卿本覺寺轉住○二十四世顯蓮社良赫上人當光明寺○二十五世余蓮社良敬上人明和二年九月十日化○二十六世轉住○聲蓮社良微上人安永三年酉十二月二十五日入院行年三十二歲四年住職安永九年十一月下旬西國修行出

○當時二十七世恢蓮社良廓和尚代○九品寺西光院良廓達同代

○光明寺

淨土宗

○護念山光明寺攝取院本寺下野國芳賀郡
大澤山圓通寺淨土宗門之開基不知開祖
順蓮社良和上人天河日問和尚不知化年○中興開山
源榮上人永祿二年未三月十日遷化○二世信榮上人天正十年八月十日化○三世空榮
上人年号不知某月二十九日化○四世良榮上人某年三月十九日化○五世
元和不年月不知二日化○六世良嚴上人寬永二年七月五日化○七世傳榮上人寬永十二年十月十日化○八世良念上人寬永十六年六月三日化○九世良心上人某年十月三日化○十世良笛上人承應四年正月十六日化○十一世良正上人遷化年不知○十二世良閑上人寬文四年三月廿六日化○十三世報榮上人天和二年二月二十三日化○十四
良遣上人寬永二年七月二十日化○十五世良庵上人寬永二年八月三日化○十六世
良覺上人年号不知九月廿二日化○十七世良愚上人享保十三年七月廿八日化○十八世

良繁上人同十九年四月十八日化○十九世良顛上人年八月不知○二十世良
 真上人宝曆八年正月三日化○二十一世良赫上人天明四年九月朔日化○二十二世良
 乘上人寬政九年八月朔日化○二十三世良縑上人寬政十年七月二十一日化○二十四世良
 功上人文化十三年閏庚○二十五世良蒙上人現住文化十四年四月廿九日入院

○武州寺

○武州寺

桃雲寺

淨土

羽黑所

○桃雲寺

浄家土防

羽黒町

○傑作山桃雲寺本山ハ下野国真壁郡大澤圓通寺寺領ハ石ノ東ニ永祿二年ニ向家ノ建立

ありし寺ニかくて市遷邦の後横手ニうつりぬ大檀那法号傑山浄英居士桃雲道見庵主両君の法石を山号ト寺号セし元和以前の住僧の石不詳

○本尊阿弥陀佛立像市長ケ二尺五寸春日作

○当国寺開山然蓮社法誉上人元和十年正月二日化○二世厭蓮社

欣誉上人室永六年三月廿四日化○三世心蓮社深誉上人詳不詳○四

世船蓮社良兼上人同上某月六日化○五世厭蓮社良縁上人

並同五月十六日化○六世往蓮社良法上人並同三月二十三日化○七世覚蓮社良

生上人元禄四年十一月二十三日化○八世光蓮社良融上人正徳三年十一月二十六日化○九世

願蓮社良本上人年不知○十世雷順和尚久係四山杉山
○十一世順察和尚久係四山馬哈寺○十二世文蓮社良感上
人延享四年八月十日化○十三世念蓮社良祿上人延享二年三月六日化○十四世流
悅和尚延享八年四月八日○十五世諦蓮社良觀上人明和二年五月
月二十三日化○十六世宗譽上人年月不知○十七世光蓮社良明
上人文化九年十月某日化○十八世得蓮社良福上人文化七年七月二十日化○十九
世現住良誠上人存隆和尚之

正法寺

日蓮宗

○正法寺

横手寺

日蓮宗

○佛眼山正法寺ハ京都廣布山本満寺の末流ニ

○開祖ハ正徳院日意聖人万暦九年戊戌四月吉日遷化○二世唯性院日相

大徳江戸浅草妙音寺ニ移轉○三世慈眼院日球大徳貞享二年正月十七日化○四

世唯性院日相大徳江戸浅草妙音寺ヨリ再住元禄九年五月二十三日化○五世一及院

日如大徳正徳元年七月十四日化○六世鉢了院日真大徳寛永三年六月二十三日化

○七世寂住院日立大徳羽列米沢妙國寺ニ移轉遷化年月不知○八世智境院日

乗大徳延享二年六月十五日化○九世智詮院日遠大徳宝暦五年三月十五日化○

十世妙光院日圓聖人天明元年癸未法興寺移轉文化十二年八月吉日於口院化○十一世智

應院日能聖人文化九年九月十八日化○十二世現住貞善院日宣文化八年三月二十八

院入

○寶物教品

○大黒尊天 高祖日蓮大菩薩直作之開基日
意上人より代々傳來之

○高祖直弟六光僧第二日朗菩薩市真筆本尊字

日天子 祖師云以漫索印德

天照大神 鬼子母神十羅刹女

南無妙法蓮華經 日朗在判

八幡大弁 八月四日 心

月天子 二世安樂寺魏者也
弘安九年 丙戌

同秘

○日朗尊者弘安九年丙戌八月四日市尊翰無继慮者也

○此柱鈴は旅商人のもとなり 買ひ得て持ちて檀越有縁市

郎が妙見神前より寄附 文政八年十月十五日 表に鎮宅靈符神の文字

あり 神子文祿二癸巳二月日肥後守藤原清正と彫り此神靈の形官庫に在

る楠正成り靈符神鈴とあり 考肥後国八代郡神宮寺靈符神 果

始に肥後国八代郡自本山神宮寺よりあり 神符尊像の妙見菩薩あり

昔漢孝文皇帝弘農縣界より三惠の宅の家富ちるを見給ひて

あやみ其主を呼て是を問給ふ彼者答へて

姓劉名進平といふあり 往昔我家禍

災甚かりしに何方よりとも知

ぬ書生二人来りて七十二符を

文祿二癸巳三月日

肥後守藤原清正氏

鎮宅靈符神

傳へ授く即教い受て此法を傳へる者十有餘人、大富貴二
十年、子孫繁昌三十有餘人、必白衣天子宅に入る者ありと
云ふ門をまゐる者五十あり、矢奴只白氣一道天より降る而已あり
其言、一、是をんといふも、白衣の天子をんば、孝文天皇
帝位、^後靈符を付く天下を施す云々、吾朝、靈符の板を即
ち、人皇四十五代聖武天皇、市宇天平十二年、肥後八代郡
白木山神宮寺に於て是を梓ちちり、其板滅す、今の板、南朝
正平年中、後醍醐天皇第六ノ市子征西將軍良懷親王
八代郡高田郷に市依住、時梓を市建立神宮寺に納給
ふ、今出、靈符の曼陀羅是あり云々、八代上ノ官、妙見本地
大日如來、妙見託、云々、新迦阿弥陀觀音地藏金剛藏王虛
空藏大威德我身あり種々現す、故に七尊妙見と号

すゑと縁起よしなり

○ 荒化佛

大日如來の佛像

大鳥居山ノ西

北へ行幸す所なり朝倉の余梨堂

また金利塔の側また
あやうきことをいふ

てむうふ寺ありふさふといふとふふふふ野中村の空三介

これ三人を朝章にのみあそこ

先有^木空之介あや^木之水

飛入替て此佛を

甲

此事からいふに人を

其家子也

あつちへ

ありさうに仏を松之助が

家子 皎しぬまた人のもとよりいしふ

甲 萬四寸八分
鉄、鑄併之 乙



妙法を得奉りて浮てこゝすれ此和讃ハ日持の内に上人の作とて了と今人の作とをいふも了

此石極札云 高祖大士市教化石

甲州東郡石和村鶴飼川市径石妙色正之三字

無疑者也

石和川教化之砌与

市伴僧者六老僧日朗日向市両聖也

径石者市三人之筆跡也

甲州東河内大嶋村

光長山十九世

日近在判

云々

○根本庵室、開基

深井邑伊藤弥次郎

寶曆十二年壬午、六月十二日此寺回祿、あひて縁記

古記録等傳り、檀家古充のの子聞了事を記した

るのこあり

淨光寺
西
一向宗

○淨光寺

西一向宗

○羽場山淨光寺ハ西本願寺末中本寺ハ仙北郡六
郷村ニ吉水山善證寺ニ淨光寺ハ本トみ古比ノ南
部羽場村ニシテ一ノ多ありしを以て羽場山の郷ハ
あそとあ曲ちとハ伊と云

○開基西念○二世淨心○三世了圓○四世教誓○五世教
正○六世教兼○七世道順慶長年中顯如上人画像
師免之○八世玄正○九世善正此代延寶年中開山
親鸞聖人画像及良如上人太子七高僧正徳年中
開山之縁起師免○十世惠願○十一世紹正此代塔中
常淨寺建立○十二世祖閑○十三世永觀○十四世祖丹此
代洪鐘建立○十五世祖靈此代法如上人真筆六字石

号栢領天明年中旧記燒亡遷化年月不知○十六
世牝鳳文化十二年亥二月十日化此代聖德太子木像
福島康善寺授與正身八寸座一尺一寸之○十七世祖苗文化七
年午十月六日化○十八世現住有宗

洪鐘

享保六年丑年五月十一日羽場山淨光寺十四世
願主釋祖丹奉寄進藤朝臣家續

淨光寺

塔中

○常源寺

無量壽院

千手沃

真言宗

○無量壽院

沢ノ寺といふありて沢といふ
千手沢といふ事あり

○此寺ハ山城国醍醐殿の市門末より新義真言宗
派清水山吠尸羅寺無量院といふ此無量壽院京都に
出で八千手院といふ無量壽院千手院西院兼帶の
寺といふものなり一京都の清水寺の傍此平康親王南依
りて草創より清水山の号ありてなり無量壽院ハ
旧沼鍬に存りし寺なり其地跡雄山菩提寺藏光院の在
る地なりそのころハ藏光院をおくありてなりハ藏
光院ハ奥の坊よりハとあり雄勝郡杉宮旧記云々清
水山吠尸羅寺無量壽院ハ小野寺秀道公より代々の
祈願所之白月十五日ハ無量院壽に存りて国家安全ハ
祈禱をしあり黒月十五日ハ雄勝郡杉宮に存りて天

下泰平五穀成就萬民豐樂因司武運長久を禱りし
よし吉祥院の省主宥園をせりと見えたり小野寺
家系を考へて透道の父の重道小野寺雄勝殿より山
母の結城朝茂女之下位守大泉六郎秀道仁永三年
八月二十日卒法名定學院云々と見えたり

○本尊不動明王像根来開山覺鏝上人 御作

此本尊ハ京都智積院蓮藏僧正持念より春山房義堂彼
僧正の身を委ねて多々年一宗一派の一事を學び侍て一乘院入院
の時僧正託念より此不動尊を我堂に與へ給ふかくて後義堂秋
田郡蜀川村の別院に於て近代の時當山の住僧慶照の遺物として
賜り給ふ尊像なり

○不動尊吟謁羅童子制多伽童子三幅對 画像

此不動明王二童子繪佛師ハ妙澤ハ妙法より訖漱より訖漱ハ
夢窓國師の才子ハ佛画尤不動ハ名高し

○千手觀世音木像 慈覺大師 御作

多田瑞仲市男美女市前、前基市領内三十三所順拜礼処

○錦戸帳丸内扇形 日九金色 千手觀音戸張之一乘院、十世義堂

師奉納之 考古本秋田順礼託云、四番無量壽
寺千手院中頃より寺号あり占部致尚 長久年中建立之

○千手觀音大佛師定長作

○鎮守毘沙門天王 毘首羯摩作

夏山の梢に塔あり
か衣淨は寺の
市法堂より

○毘沙門天 毘首羯摩作

○紺紙金泥心經一卷 高野大師筆

○紺紙金泥大般若經片紙 管公、御真翰

○古笈一頁 武藏房鞍馬山より負来りし

○千手觀音末社 稻荷明神 毘沙門天 歡喜天

開基削祖往古世代不詳故二世尊雅天正年間尊祐年九月
 尊長上尊意年九月弘長年九月弘天僧名元祿三年
 覺禪僧名元祿十四年春融三月廿八日中興祖覺寶僧名元祿十四
 年辛巳三月二十八日入院正德六年丙申二月三十日遷化
 慶照僧名享保二十年乙卯十月廿八日快山元文元西辰五月入院寺造塔門二
 慶意僧名元文二年己九月十九日密忍慶壽延享四年卯二月廿三日慈正寶曆
 二年申二月十六日慶博天明元年丑三月十八日慶養延化年義門延化年
 真采延化年淨延寬文七年卯八月二十六日尊純僧名仙北郡川
 和野邑清光院移轉尊貞僧名文政元年秋田郡
 今戸村寶相院移轉宿應僧名當住僧文政元年
 戊寅六月仙北郡神宮寺邑華嚴院當寺子入
 院院天正年中前往古の歴代絶つ傳らず

法流

松橋流お續之事因余身授與之年齢未滿以比丘
 義豊為阿闍梨代令傳法許可耐法印權大僧都覺寶也
 元祿十五年正月十二日

松橋法主檀信山押花

宛文

羽州秋田領仙北平鹿郡横手千手院事自今以後可
 為醍醐松橋無量壽院並末寺之旨依院務僧當消
 息之野執達如件

弥勒院法印

元祿十四年八月五日

信榮押花



信榮

西

千手院市房

○院号市房是、東覚院ノ別事之

院号

○宣号 東覚院

右依當寺舊慣、号仍如件

寛永十八年冬月亦日

高野山高祖大師遍照金剛尊 卅代目清淨院

法印宣雅 押花

西

○添状

一貴院之事國中、往古量事院、由是代、千手院、由松橋殿、披露、中、小比夜末寺、宛久、千手院と、成、是、中、國中、テ、有、寺、兼、身、之、係、有、無、量、事、院、昔、テ、有、号、別、係、在、之、以、上、

松橋傳、中、内

元禄十四年己十一月廿日

辻大貳法橋 宣、以、西

秋田

千手院宗覚市房

舍

右棟札再摹

舍

川川川

丙

觀應元年

歲次

閏七月廿五日吳武郭信家

子時長享季酉日拾月九日

背

自是先造管建久季鐵殿八月庚寅日柱立棟上之

甲寅見喜元年戌之六月十三日

乙正應三年庚寅六月廿八日

文政九年ヨリ前ニ
甲寅寛喜元 五百八十八年
乙正應三 五百三十七年
丙觀應元 四百七十七年

○祭禮

○千手觀音祭々四月十六日十七日あり 市城代より
市目附役兩人市足輕兩人致意固たりあり對の市燈
籠市奉納ありまた正月より十二月まで月々國家安
全市武運長久の祈禱あり

○堂社境内

○千手觀音末社毘沙門天 聖天 稻荷三社之堂林共
ニ東ニ市立林境沃上堀切リ西ニ墓所古社下マテ
百十間餘リ

○當寺境内東ニ寺墓所西ニ千手沃川切門前屋
敷ニテ堅ニ百八間餘南ニ沃向山道切北ニ千手澤川
切横七十九間より十七間より廣狹不同り残十ヶ御

陰地

山崎念佛寺

牛の首戸と小野寺
義道の時世にこの
死罪を行ひしふ此
地大屋村に近き
今小野とありあり
うし首戸同右山
都向能代りあり
桃の名処一村と桃
林あり

○山崎念佛堂

○此堂本寺に當地護念寺光明寺の開基不知
檀手草創の庵室あり由を申付ふに古来一境無縁供
養の道場となり元和九癸年本山法譽上人此山崎
に開序して国安全のゆゑも牛の頸戸に記されたり
し罪刑行ひし亡魂菩提の爲に常念堂一字建立
ありしが元禄の頃より此念佛の靈利退轉及びその
より年々七月の別時念佛回向執行の事と成
りぬかくて當時本山光明寺二十四世秀和尚隱居し
行りて常念佛堂再興のため千日念佛執行せり

○賢物並来由

○此念佛寺に九郎判官義經朝臣自作給ふ千躯の

弥陀の木像四寸五分一柱あり古に松前光善寺浄土の末院義
經山欣求院より授與の佛なり由来左に委曲之

○羽洲横手光明寺阿弥陀如来縁起

本寺所安置尊像者松前島義經山欣求院十佛
之一而源義經所自作也蓋義經高館之役伴死
逃者晦跡于海島潛遁氏威以服島夷厚奉佛教
以示恩信建立一寺作為十佛而故事之見有所崇
尊也是故島夷之於義經也畏而敬之愛而親之
至今飲食飲酒必先祭之云已卯七月本寺老上
人秀任漫遊航海至松前島留錫于義經山舍山
中新鑄大鐘上人為是說法七日住持善固和尚出
謝儀若干上人無一所受歸時乞尊像二而渡海至

中流大風波濤洶湧船殆覆矣船人大懼於是上人
高唱尊號伏祈冥助須臾風止波收竟得上岸
實十月二十四日之事也從是到處說法教化季冬
寓我府下應法侶囑中初尚之需安置尊像于誓
願寺捧此一像而歸于本寺夫阿弥陀佛者諸佛中
之至尊其德無量也今大千世界一草一木有不被其
恩者乎曰無有矣義經者一代中之英傑而其用兵
如神也今六十餘州嬰兒孩童有不知其名乎曰
無有矣以一代中之英傑自作其德量之尊像事之
如之此者其意欲必濟渡一切衆生至彼岸也一切衆生
亦對此尊像一心信仰心降其冥助已於上人海渡之日
可見焉辛巳仲春上人告予以此事請文以記時

予可夢而不敢辭有欲為先人作追福也故於阿
彌陀佛及尊像等諸字則一字百拜書于時
文政四年涅槃之前一日雪齋居士とあり
祐天上人^{かみじょう}袈衣名号監書

南無阿彌陀佛

祐天祖

此一軸の裡書云

表六字市名辨者増上寺三十六世當寺開山明顯
誓大僧正通阿愚心祐天大和尚染筆無疑者也

明顯山祐天寺九世主

文化九年壬天十月十五日

南西北阿愚學祐東

此南西北阿祐東 南蓮社西誓上人北阿彌陀佛祐
東 東西南北を名よりてなり

○布帷子六字名號並百萬遍念珠縁起

○ソル此市名号並念珠の由来を尋ねまうと三
縁山増上寺三十六世明蓮社頭發通阿毘心祐天大僧
正の市真筆より念珠共利衣とふ女子授與の品
に其故いふとまれば常陸国新治郡片野村高濱屋
武右衛門とて宮田某家の農氏有一女二男の子ありて姉を
まゑとてい二男を長次郎三男を徳次といふと姉は衣
比同国土浦の城下山石見屋某の嫁ぬかして十二年を
経る夫三十一歳より病なりて妻は之を懷妊の身あり
八月維産まやこくくくく弟徳治産の安否を尋ね
くく幸いちくく近きと祐天上人市行脚の序同
所高約寺より市宿あり頃ハ元文二年に叔父徳治

事と祐天上人の市師取固通上人の志をく仕奉り
りし者此縁をよりて祐天上人の市宿寺の衆上
り云々姉と云々難産して三日三夜もや産命のあや
し何卒市慈悲を以て安産の眉を開せ給へと懇ろに
願奉れば上人然るば祈禱當寺の佛前に於て修行
すゝし外に修法の矩則ありと云々着用の衣類持卷あ
るゝしと仰あれば上人の作しありて則と云々白帷子
一衣持卷し夫より上人本尊前より香花燈明の献供
心を令し有合僧俗連なりと云々光明遍照と開口ありて
百萬返修行初めと云々徳法持卷の布の白帷子
南無阿弥陀仏と身二幅の書せ給ひ直に須弥壇前
掛置き又々百萬返修行上々始の面を何卒と云々安

産の大悲なれ給へと至誠の信心を起し云々一心不乱唱
へられ不思議ありと云々本尊の前より掛置たりし白帷
子よりちもち動揺する事ありと云々人々風をきき此
道場の帷子の動揺する事ありと云々思ひを有しと云々問
外より走り来りしものありと云々上人の中より私事衣
見履の便と云々事ありと云々安産しと云々子ハ子
身よりさやいと云々市と云々上人の誠し佛
智の不思議を感じと云々後代に及て身頃二布の帷子と
裁切り表粧を補ひの市宿寺の真すと云々二布の帷子の
あり心をけて拝信ありと云々予羽刈と云々日銭別の
ありと云々此一軸の市宿寺に在る念珠と云々附属を得
る事ありと云々本志を基き今更けし自信教人信の道場を

あふけ弘道せしむるに帝号ヲ徳治ニ叙難を救ふ
に證據のため祐天寺一代祐東和尚キハ駿の一幅之是尚
心を留て拝禮ありしと

護念山光明寺二十四世主良功秀任焚香拜書

